令和6年(2024年)3月

令和5年度 学校評価表の目標達成のための重点事業

部署	関連項目	令和5年度 目標達成のための重点事業	評価	改善点・提言	成果と反省（来年度に向けて）
教務・庶務・防災	10,11	保護者・地域への的確な情報発信	B	・効果的な情報発信とペーパーレス化推進のため,学校だよりを配信形式に変えた。 ・職員会議もペーパーレス化を定着させ,クラウド上に共有化するなど工夫を続けている。 ・コロナウィルス禍が収束に向かう中で社会や生徒の実態に即した柔軟な校務運営を心掛けている ・想定される災害の発生に向け,防災マニュアルの改訂に着手した	・コロナ対応が5月以降,改善された中で,各種行事や業務をコロナ以前の状態に戻しつつ,必要に応じて内容を取捨選択しながら滞りなく,実施できた。 ・コロナの分類が他の感染症と大差なくなる中,各種行事の実施の在り方について取捨選択しながら最適な方法を見出していくべきだと思う。 ・防災マニュアルを整備することができた。
	1,2	組織として円滑な学校運営	A		
	1,10	職員間での適切な情報の共有の推進	A		
	2,9	防災訓練の実施と工夫,防災教育の充実	B		
情報ネットワーク	1,5	情報ネットワークの更新管理	B	・一人一台端末の導入も3年目を迎え, 全校生徒に対して, タブレット端末を活用した教育活動を行うことができるようになった。アプリケーションの導入も視野に入れながら, 一層効果的な活用を促進できるような取り組みを行いたい。 ・情報機器やケーブル等の貸出管理が散逸しがちであり, 適切な管理方法について検討が必要である。	・一人一台端末の活用に関して, GoogleClassroomによる情報配信, 資料配布やアンケート実施のペーパレス化, 探究学習での活用など, 一定の取り組みが浸透してきている。タブレットのノート化など生徒の自発的な活用の様子も増えてきている。今後も職員・生徒の積極的な活用を後押しできるように努めたい。 ・職員の校務用アカウントや端末の整備など, 校務に関する支援も丁寧に進めることができた。次年度は校務に用いるアプリケーションの更新も予定しているため, 全職員のスムーズな移行ができるように, 努めたい。
	4,5	校内LAN・普通科PC教室についての環境整備	B		
	1,2	個人情報について,適切なデータ管理を徹底する(アクセス制限など)	B		
	1	職員間の情報共有に関して,イントラの充実をすすめる	B		
授業計画	5,6	学習効果を高める時間割編成の研究	B	・特編授業,3年テスト返却もバランスを考えて計画できた。 ・科目選択は早くから取り組んだが,特に新3年は新たな科目が設置され,今後更なる研究が必要である。	・12月3年生,3月1・2年生の答案返却も予定通り計画できた。 ・新教育課程が2年目となったが,1,2学年の全担任・副担任で協力しながら授業に組み込むことができた。来年度は全ての学年での実施となり,また3年次に4単位選択科目も実施されるが,バランスよい時間割編成に努めたい。
	5,6	考査・特編の計画・実施	B		
	5,6,7	科目選択及び講座編成の工夫	B		
進路指導	5,6	進路通信・学年進路通信の発行,模試結果の分析	B	・各学年の進路行事・模試をはじめ,信州大学説明会,大学模擬講義,予備校講師を招いての医学科セミナー,入試研究会,受験対策講座などを,計画通りに実施している。 ・各学年の進路通信により,模試・探究学習・学習指導など多岐にわたる内容を伝えている。進路室通信も適宜発行し,生徒への情報提供や進路意識の向上を図っている。 ・前年度入試結果・最新入試動向などをまとめた資料を,学校評議員会・同窓会・PTA等に提供している。 ・大学入学共通テストや年内入試に向けて,適時情報を発信しながら出願指導・確認作業を行っている。	・総合型選抜・学校推薦型選抜（共通テストを課すものを含む）の募集定員増に伴って,出願者が増えつつある。基本的に「まず学力重視」,そのうえで「機会を広げるために年内入試を活用する」方針で取り組んだ。議論を重ねつつ,本校内の指針を確立させていく必要がある。 ・進路学習の教材やツールを一層活用していく。特に模試については実施のありかたを模索していく。 ・探究学習と進路活動との連携を深めていく。 ・進路行事について精選を進める。計画性・系統性の検証,事前・事後指導を含めた内容の改善について議論する機会を設ける。
	5,6,8	進路情報の提供	A		
	5,8	進路検討会議の実施	A		
	1,10	懇談会への資料提供	A		
	7,8	キャリア教育全般	B		
学習指導	5,6	学習計画の立案と実施 シラバスの作成	A	・小論文指導では,3年前から予備校の講師に変更し,講演会を実施した。46名の生徒が参加し質問等行い好評であった。また,小論文個人添削では今年度は専門の業者に依頼した。 ・人権平和学習は,中村哲医師のドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともす」を鑑賞し,振り返りフォームに感想等まとめ提出した。 ・「学習室便り」を発行した。 ・長期休業の補習は計画通り実施することができた。それ以外にも各学年による補習が積極的に行われた。 ・学習室を拡張してから,生徒の利用時間,使用頻度が大きく増している。 ・匿名性を担保した授業評価の調査では,今年度から全面的にGoogleForm入力に切り替え効率化が図られた。 ・総合的な探究の時間は,学年の学習係が中心となり,計画に従い実施することができた。	・小論文指導講演会では,予備校講師にお願いした。来年度も意見を聞きながら実施していきたい。小論文模試や個人添削についても,業者選択等含め検討していきたい。 ・前期特編授業は,出席面や授業内容等振り返り,次年度につなげていきたい。 ・人権平和学習については,今年度は校内で実施したが,外部講師を呼ぶ場合には,早期に日時の調整等行う必要がある。 ・探究学習については,大学や地域との連携を視野に, 学年の学習係と連携し合い,具体的に計画を立案し提案していく。 ・日常の家庭学習状況を調査し,その結果を面談等で振り返り,家庭学習の充実が図れるようにしたい。また家庭学習重点週間について形骸化している面があるので,内容について検討する必要がある。 ・模試分析では,模試の結果を少しでも授業等でいかせるように,進路係と連携していく必要がある。
	5,6	小論文指導	B		
	5,6,7	補習計画	A		
	5,6	総合的な探究の時間	A		
	2,3	人権平和学習(10月)	B		
	6,7	学習室・自習室の環境整備	A		
	6,7	生徒による授業評価の実施と分析	B		
	6	授業公開・研究授業などの立案・計画	B		
図書視聴覚	4,9	日常および学校行事での放送協力	A	・各分担ごとに,着実に計画通り進んでいる。探究学習や進路に関する情報など,必要な時に適切な資料を提供できるよう心掛けている。 ・図書資料のうち新書の需要が増加しているため,需要の高い分野について計画的に購入していきたい。	・新たな設備により放送委員と協力して放送の準備運営を行うことができた。 ・図書委員会では活動内容を再検討し,高松祭の図書企画や読書週間企画,百人一首大会も実施できた。 ・図書館では例年通り,小論文・面接に必要な資料を随時更新,提供し,受験のニーズに対応できるよう努めている。 ・探究学習では,図書館の利用方法などに関して,探究担当係や学年と連携を取りながら,より良い方法を考えたい。また日ごろから授業で図書館を活用できるよう呼びかけをしていきたい。
	7,9	図書通信の発行	B		
	5,9	各学年・係・探究活動と連携した資料提供	B		
	6,8	小論文・面接などの資料提供	B		
生活指導	2,4	安心・安全な学校づくり	B	・通学時における交通安全について全校で集まる機会などを捉えながら注意を促してきた。自転車事故などは年度当初にあったが減少してきた。 ・スマホ利用についてはゲーム依存など課題もあるように思う。今後も指導方法など含め引き続き検討していきたい。	・ 生徒の多くは安心で安全な学校生活が送れているが,スマートフォン利用については今後もトラブル防止のための指導を必要と考える。 ・ 今年度5件の交通事故が報告されている。その中には交差点での自転車と車の接触などもあるため,引き続き登下校の安全について指導したい。 ・ 高松92宣言について,引き続き指導の中心とする。
	2,4	基本的な生活習慣の確立	B		
	1,2,9	情報の共有と指導体制の確立	A		
生徒会指導	1,4	高松92宣言の遵守	B	・高松祭は,4年振りにコロナ禍前と同様に開催することができた。2日通じて3000人程の来場者を集め盛況であった。感染症,熱中症対策やおもてなしの姿勢など今後に生かしていきたい。 ・各委員長を含めた役員会を行い,活動状況を互いに把握するとともに積極的に委員会の活動が展開されるよう工夫した。 ・役員の発足にあたり,いのちの碑の慰霊を全役員で行いあらためて高松92宣言の意義を確認させた。	・高松祭では音楽会の保護者観覧,制限なしの一般公開,ファイヤーストームの水まきなどコロナ禍前と同様の企画を実施できた反面,課題も多く出た。今後に繋げていきたい。 ・委員会活動は,顧問の指導により継続的な活動ができた。 ・各委員会の活動や各班活動の活躍などを校内でさらに共有していくことで活発な活動になっていくと考えられる。 ・高松92宣言が30年を経たが,風化させず生徒,職員ともに意義を継承していかなければならない。
	2,9	高松祭などの行事の運営	B		
	2,9	委員会活動の活発化	B		
	7,9	班活動の活発化	B		
教育相談	1,4,7	アンケートによるニーズの把握と問題の発見及び予防	B	・悩みアンケートおよび学校環境適応感尺度「アセス」により,悩みを抱える生徒の面談や相談に活用し,予防に活かすことができた。係会や教科担当者会等を通じて,生徒の情報共有や合理的配慮についての理解を深め,相談力向上事業も活用して生徒・保護者に丁寧に関わり,SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）と連携しつつ遺漏のない支援及び環境整備を図っていきたい。	・係会や学年会等を通じて,生徒の情報,配慮事項及び支援方法などについて共有し,SC,SSWとの連携し進めてきた。次年度も生徒・保護者に丁寧に関わり,遺漏のない支援及び環境整備を図っていきたい。 ・悩みアンケート（「アセス」調査）はグーグルを活用して3年目になるが,データ処理が簡易的に行える半面,回答者数が減少しており,全員からの回答が確認できるよう,努力していきたい。 ・教育相談の研修について,年度なるべく早い段階での開催が有効であるため,配慮して計画を進めたい。
	1,4,7	生徒・保護者の支援及び環境整備	B		
保健衛生	1,4	生徒・職員の健康管理	B	・例年行っている救命救急講習は,急激なコロナ蔓延に伴い直前に中止とせざるを得なかった。今後も感染症の影響もあり課題は多いが,引き続き安全面に配慮しながら,生徒,職員の健康状態を見守っていきたい。	・来年度の健康診断も安全面やプライバシーを配慮しながら実施していきたい。 ・学校行事等でコロナの制限が緩和されてきている中,安心して（特に感染面に関してクラスターの発生に注意し）実施していきたい。
	2,4	学校安全の徹底	B		
美化	2,4,9	全校生徒の美化・環境意識の向上	B	・前年に引き続き感染症対策として個人のゴミの持ち帰りに全校で取り組んでいる。今後も持ち帰る意義を理解してもらい,継続につなげたい。新型コロナウイルス感染症が5類に下がったため,できる範囲で美化委員会の当番活動を再開することができた。	・当番活動により,生徒もゴミの分別を以前より理解して積極的に活動を行ってくれていた。 ・個人ゴミは持ち帰りを継続していく。
PTA	10	学校と保護者の連携	B	・PTA行事は概ねコロナ前に戻り,多くが対面で実施することができ,一定の成果を得ることができた。 その中で,研修旅行は諸情勢を踏まえ中止とし,来年度以降それに代わる事業を考えていくこととなった。	・コロナ禍前のように,PTA評議員会・総会・教育懇談会は実施することができ,当初の目的を達成することができた。 ・4年前からの反省を踏まえ,地区PTAは廃止し当分活動をしないことを決定した。 ・今年度PTA研修旅行は中止となったが,PTA役員と協議し旅行に代わる事業を検討していく。
行政	4	校舎内外の環境整備の推進	A	・本館1～4階トイレ洋式化等改修工事,エアコン未設置教室へのエアコン設置工事を実施した。 ・限られた予算の中,学校施設の小規模修繕,樹木の剪定・伐採等,環境整備に努めた。 ・コピー用紙の削減,使用していない教室等の消灯や冷暖房の適切な使用を呼びかけた。 ・窓口対応や電話対応等,親切・丁寧な対応に努めた。	・本館トイレ改修,エアコン未設置教室におけるエアコン設置等環境整備を重点的に行った。 引き続き限られた予算の中で,できる限りの改善を進めていく。 ・節約や節電等への取り組みは継続していく。 ・来校者や電話対応も引き続き丁寧に行っていく。
	4	エコマネジメント長野への取組推進	B		
	10	来校者等への親切・丁寧な対応	B		
1学年	5,6,7	iPadの活用と家庭学習習慣の確立	B	・学校活動全般でタブレットの活用については定着してきている。生徒のスマートホンとタブレットの使い分けに課題がある。 ・コロナ以前の学校生活に戻り,普通の高校生活が送れていることはありがたい限りである。欠席の多い生徒もいるが,想定していたよりは少ない。 ・問題行動も少なく,落ち着いている。「いじめ・暴力」については,発生してからでは遅いので,機会があるごとに指導したい。	・学校活動全般でタブレットの活用については定着してきている。生徒のスマートホンとタブレットの使い分けに課題がある。 ・クラスマッチや英単語テストでは,クラスの対抗意識を良い方向で発揮して成果を挙げることが出来た。また,清掃活動では各清掃分担の清掃に真面目に取り組み,常に清潔な学習環境を自ら作り出すことができた。 ・問題行動も少なく,落ち着いている。「いじめ・暴力」については,発生してからでは遅いので,機会があるごとに指導したい。
	7,8,9	挨拶・清掃など基本的生活習慣の確立	B		
	3,8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	A		
2学年	4,5,6	家庭学習習慣の確立	B	・学年通信などでの呼びかけやグーグルクラスルームを利用しながら家庭学習の充実指導に取り組んだ。基本的生活習慣の確立,班活動の両立については,生徒とのこまめな面談を通じ指導を行っている。いじめ・暴力の根絶については,HR活動や授業を通して,その重要性を引き続き理解させたい。家庭連絡を密に行うことで保護者との信頼関係を構築し,協力体制を強めていくことを意識しながら諸々の指導を継続していきたい。	・強歩大会,春・秋クラスマッチ,高松祭,そして修学旅行と2学年で予定された行事はほぼ実施できた。特に修学旅行は中学校で経験できなかったこともあり,生徒の思い出に残る体験となった。 ・上記の行事を通し,クラス内・学年内のまとまりや,個人やクラスの特徴を理解し,切磋琢磨する姿勢が見られ,単語テスト・模試結果・定期テストへの取り組みも積極性を増した。また,清掃活動も積極的に行い,教室・廊下も清潔に保たれた。学習については,時期ごとに目標を明確化して取り組みをしている。。
	6,7,8	挨拶・清掃など基本的生活習慣の確立	B		
	1,8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	B		
	9,10	保護者との信頼関係の確立	B		
3学年	5,8	目標目的を重視した志望の進路実現	A	・本人,保護者と懇談を丁寧に行い共通認識の下で進路選択をできるよう心掛けた。生活がコロナ禍前の状態に戻り,例年通りの入試形態を戻した大学も多く,不安要素が多い中,最新情報を入手し着実に進路指導ができるよう留意した。班活動の大会や行事のコロナ禍前のように実施されたが,最上級生の立場になった生徒たちは多くの苦難があり,生徒たちの気持ちに寄り添い目標に向かえるよう配慮して指導した。過去2年間の状況と変わり,欠席に関してはペースをつかめずに欠席の多い生徒もいたが,各個人ごとに対応することができた。最終学年として心身ともに,個々にも集団としてもたくましく成長した姿となるよう指導を継続していきたい。	・前期特編授業を通じ,共通テストに向けた実力養成を図った。また二次試験対策として希望を募った上で後期特編授業を開設し,前期日程直前まで実施した。 ・旧課程最後の年の受験であったが,安全志向に陥らず,生徒の第1志望に寄り添い,進路指導を続けることができた。。 ・コロナの制限が解除され,強歩大会,クラスマッチ,高松祭,班活動の各種大会などを行うことが出来,生徒たちの社会性や協働性を養うことはできたと思われる。 ・コロナの制限は解除され,PTA活動も徐々に復活してきた。保護者とは,個別面談や配信メールでの周知などで連携した。保護者との更なる連携強化に向けて,配信メールやグーグルクラスルームの活用方法を研究したい。
	9	社会性・協働性の育成	B		
	11	生徒保護者と学校の連携	B		